

4. 取組内容の進捗状況(平成28年度)

【奈良先端科学技術大学院大学】

■ 共通の成果指標と達成目標

国際化関連

○ 海外教育連携拠点 インドネシアオフィス

インドネシア同窓会と協働し、4月に本学初となる海外教育連携拠点であるインドネシアオフィスをボゴールに開設した。8月には、キックオフシンポジウムを同地にて開催し、諸大学や政府機関、また同国に拠点を置く日系企業に本学のプレゼンスを示した。

○ ガジャマダ大学とのコラボレーション・オフィス

ガジャマダ大学(インドネシア)のバイオテクノロジー研究センター内に、インドネシアにおける本学との共同研究の推進などを目的として、コラボレーション・オフィスを6月に開設した。同国の本学修了生(同窓生)との教育研究連携を推進し、アジアにおける本学の役割を強化した。

○ 海外教育連携拠点 タイオフィス

タイのカセサート大学工学部キャンパス内に、海外教育連携拠点を3月に開設した。今後は、インドネシアオフィスとともにアジアの拠点として、留学生の募集と選考、協定校との連携、また修了生(同窓生)とのネットワークを深化させるなど、教育研究のグローバル化を推進する。

ガバナンス改革関連

○ 戦略企画本部

戦略企画本部会議において、国際交流の進捗状況の確認と海外の教育研究機関などとの連携の方向性について検討した。

○ 1研究科1専攻体制への移行

学生のニーズを反映し、領域横断的な履修を可能にする1研究科1専攻体制への移行に向けて準備した。教育推進部門にカリキュラム担当UEAを配置し、学際融合教育に向けたカリキュラム設計などの準備を着実に進めた。

○ 留学生・外国人研究者支援センター

留学生・外国人研究者支援センター(Center for International Students and Scholars (CISS))を4月に設置し、地域の行政機関との対応を含めた留学生へのサポートや、外国人研究者の受入れに伴う市役所や銀行の手続きなど、留学生や外国人研究者に対するワンストップサービスを実現した。

教育改革関連

○ 海外FD研修の実施

参加者のニーズを踏まえて海外FD研修のカリキュラムを見直し、より実践的な教授法が習得できるように改善した。カリフォルニア大学デービス校における研修に参加した教員の指導能力と技術を世界水準へと向上させ、学内報告会や各研究科でのFD研修会などにおいて情報の共有を図った。

○ 職員を対象にした研修の実施

英会話研修により事務職員の英語力を向上させたほか、海外SD研修をジョブシャドウイングを中心とした上級レベル(オーストラリア・マッコーリー大学)とインタビューを中心とした中級レベル(カリフォルニア大学デービス校およびハワイ東海インターナショナルカレッジ)に拡充し、参加職員の国際性を涵養させた。

○ 国際共同学位プログラム

ダブルディグリープログラムにおいて、ポール・サバチエ大学(フランス)へ本学の学生2名を派遣したほか、留学生をユニテック工科大学(ニュージーランド)から2名とオウル大学(フィンランド)から1名を受け入れることで、海外教育連携プログラムの実質化を図った。さらに、国立交通大学(台湾)とのダブルディグリープログラムへの候補者を増やすため、新たに同大学院との協定書を締結した。



〈インドネシアオフィス・キックオフシンポジウム〉



〈コラボレーション・オフィスの開設〉



〈タイオフィス開所式〉



〈海外FD研修〉



〈海外SD研修〉

■ 大学独自の成果指標と達成目標

○ 学生および職員の語学力の向上

英語学習の進捗状況を確認するため、全研究科で学生対象にTOEICを実施した。また、職員対象のTOEICでは、750点以上を取得した職員の割合が平成28年度の目標値を大きく上回るなど、教育研究のグローバル化の支援に必要な語学力が着実に向上した。

○ 規則やシラバスなどの英語化

留学生および外国人教員や研究者などの利便性を高めるため、英語化すべき学内規則および文書の英訳を完了した。また、全開講科目のシラバスの英語化に取り組むことにより、1研究科1専攻体制における教育カリキュラムへの移行につなげた。



〈日本留学フェアへの参加〉

■ 大学の特性を踏まえた特徴ある取組

○ 修了生(同窓生)ネットワークの活用

本学修了生(同窓生)が核となり、ボゴール農科大学(インドネシア)で行われた「就職・留学フェア」において、本学のブースを設置するなど、積極的な広報活動を展開した。また、インドネシアオフィス(ボゴール)において、現地同窓会に業務委託した常駐スタッフ(本学修了生)を配置し、英語のみならずインドネシア語での情報発信を可能にした。

○ 海外への情報発信

全学ホームページのリニューアルに伴い、デザインを日英で統一するとともに、全てのページの見直しと更新を行った。加えて、ホームページをスマートフォン対応にしたことで、留学希望者や留学生が必要とする情報を容易に得られるようになった。また、スーパーグローバル大学創成支援事業における本学のホームページの内容を更新し、デザインを一新することにより、これまでの取組を紹介するとともに、利便性を高めた。また、海外協定校訪問および入試説明会、日本留学フェア、さらに本学海外オフィスなどで幅広く英語版広報物を配布し、教育研究に関する情報発信を強化した。

○ 海外の教育研究機関との連携

世界トップ水準の研究力に基づく大学院教育に向けて、海外の研究大学(シンガポール・南洋理工大学、インド工科大学ボンベイ校など)と新たに学術交流協定を締結した。また、学術交流協定校との国際学生ワークショップや合同シンポジウムの開催、およびラボステイを実施するなどして、本学学生の派遣や協定校との学生交流の推進を図った。

○ 日本語・日本文化入門の実施

日本語コミュニケーション能力の向上と、日本の伝統文化や慣習への理解を深化させるため、日本語・日本文化に関する授業科目を開講した。また、自学自習用に導入した日本語eラーニングシステムを授業にも活用し、留学生の日本語能力の向上に役立てた。

○ 留学生のキャリア支援

留学生キャリア支援担当UEAを配置したことにより、英語による支援体制が強化された。また、留学生対象のキャリア支援の学内向けホームページを開設したことで、留学生の相談件数が増加した。さらに、留学生が希望する日系企業などへの橋渡しを行うことで、就職率の向上につなげた。



〈学術交流協定校での入試説明会〉



〈本学修了生を核とした広報活動〉



〈留学生対象キャリア支援学内HP〉

■ グローバルキャンパス実現に向けた取組

○ グローバルキャンパス・イベントの開催

定期的に行っている「NAIST Tea Time」では、さまざまな文化的背景を持つ本学留学生や教職員と、日本人学生・教職員、そして地域住民が、飲み物を片手につろいだ雰囲気の中で、世界各国のプレゼンターによる自国の紹介などを楽しむことで、異文化理解・相互理解を深めた。



〈グローバルキャンパス・イベントの開催〉